

第41回 機青連定期総会

4月9日 於 ウェスティン都ホテル京都

去る4月9日土曜日に、第41回機青連定期総会が開催されました。今回は3年ぶりに総会、懇親会と通常通りのスタイルで開催させていただきました。総会では議案が全て承認され、新役員の改選において新幹事より第41期代表幹事に山下正起氏(協和精工株式会社)が選出されました。



〈代表幹事よりお礼〉

今期機青連の代表幹事を仰せつかりました。協和精工株式会社の山下正起と申します。先日の総会開催に際し、京都府様を始めご来賓の皆様方、賛助会員、中村顧問、機青連会員の皆様におかれましては、大変ご多用の中にもかかわらず、長時間にわたりご臨席いただきまして誠にありがとうございました。

皆様のご協力により滞りなく定期総会を終えられまして、第41期を迎えることができましたことを重ねて御礼申し上げます。

今期の年間テーマは「一意専心」～念ずれば花開く～と致しました。

一意専心とは、他に心を動かされず、ひたすら一つのことに心を集中すること。

「一意」はいちずに、一つのことに心を注ぐこと。

「専心」は心を一つのことに集中することです。

私たちは経営者としての本分を全うして、自社のみならず地域も含めたすべての人たちのために、研鑽を重ねなければなりません。

そして、ただ学びを得るだけではなく実践の中で結果を出し続けなければなりません。

そのために、他のことには目もくれず、ひたすらに経営に向き合う必要があると考えています。

そのことを今期の機青連での学びの中で、仲間と共に真剣に考えていきたいと思っています。

そういった想いを込めて年間テーマを『一意専心』とさせていただきます。

また、「念ずれば、花開く」これは、ただ念じていれば、じっとお願いをしていれば、夢がかなうという意味ではありません。この言葉の本当の意味は、何事も一生懸命に祈るように努力をすれば、自ずから道は開ける、夢や目標がかなう、という意味です。

また、「念」という字を分解すると「今」と「心」になります。これは「目の前にある事を一生懸命やる」ということで

す。言葉を換えて言えば「実践」することです。「念」とは、「今の心」であり、「今、目の前にある事を一生懸命やること」を表しています。さらに「念じる」という言葉には「実践する」という意味があります。

「念ずれば、花開く」という言葉の裏には、「今」をたいせつにして生きないと、花は開かないという意味があるのだと思います。

「今」をいい加減に生きると、次の瞬間もいい加減なものとなり、いい加減な生活しか送れないことになってしまうのではないのでしょうか。

我々、経営に携わる人がただひたすらに経営に向き合えるように「育とう、育てよう、育ち合おう」のスローガンのもと、切磋琢磨できる機青連にしていきたいと思ひます。

まだまだ未熟な中での大役となりますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

<新役員紹介>

代表幹事	山下 正起	協和精工(株)
副代表幹事	田中 良明	(株)タナカテック
副代表幹事	松浦 昌義	(株)マツウラ
会計	山本 秀幸	HILLTOP(株)
主務	原田 紘平	(株)キョウシャ
会社訪問研修委員会 委員長	坂下 浩一	(株)サカテック
渉外委員会 委員長	荒木 正登	(有)荒木製作所
交流企画委員会 委員長	吉田 大介	吉田精機(株)
板金部会 部会長(主務兼務)	原田 紘平	(株)キョウシャ
切削部会 部会長	小島 鉄平	エースメタル(株)
経営基盤強化研究部会 部会長	有田 一繁	(株)有田製作所
幹事	植田 晃史	(有)植田製作所
	小川 保弘	(株)オージーファイン
	辻本 裕哉	(有)グッドウッド KYOTO
	佐々木 志朗	(株)佐々木工作所
	東 輝彦	(株)セイワ工業
	辻 悠真	(株)辻製作所
	島田 将央	(有)東洋精機製作所
	深水 健太郎	(株)PROTEC
	松本 源志朗	源鍍金工業(株)
監査幹事	義永 信一郎	(株)神村製作所
監査幹事	立入 一晃	(株)長濱製作所

—順不同 敬称略—